

適塾と諭吉

中津市長 奥塚 正典

大阪の福澤諭吉生誕の地を訪ねました。淀川支流沿いの交通要所の地、中津藩蔵屋敷跡です。現在は石碑が立ち、大阪 ABC ホールの一角です。続いて諭吉が緒方洪庵に学んだ適塾へ向かいました。ここで諭吉はオランダ語、医学など幅広く学びます。塾長となった諭吉の優秀さと研鑽の痕跡は数多く発見でき、中津人としては誇りたくなります。全国から多くの人が学んだ適塾、大分県をはじめ九州出身者が多いのは、その教育熱や文化度が高かったことをおもわせます。

江戸時代の交通手段は今とは比べようもなく、海路でも陸路でも移動に日数を要します。それなのに、どこの塾が優れて、よい指導者がいるのか、情報がいきわたっているから不思議です。また、その評判をもとに、遠隔の地まで出かけ学ぼうとする昔人の情熱とそれを支える藩や家族の思いにも驚かされます。

現代はどうでしょう。いつでもどこでも学べる環境があります。インターネットで調べると、文字、映像、写真など即時に詳細に示されます。世界の国々の情報も入手が容易です。でも我々の思考力が深まって人間的に幅ができ心が豊かになっているかと問われれば、なぜか答えは難しいですね。

一冊の「蘭和辞書」を奪うようにしながら苦労を重ね、必要な情報を探し当て自分で考え見極めていく。ごろ寝の塾生部屋には畳一畳分のスペースのみ。夜を徹して勉学に励む塾生の姿に恐るべき知への探求と根気。しかも仲間とともに愉快地人間らしさや感性を磨く。昔人のなした行動は競争的でありながら、互いに人間性を深めたものであったのではないか。想像はどんどん膨らみます。

どてら
襦袢姿の福澤先生を思い浮かべながら、コートにマフラー姿の甘ったれた自分に気合を入れ、大阪御堂筋を歩きました。



福澤諭吉生誕の地